



‘キヤッヂ’
CATCH

VOL.94



2020.11

西東京市図書館

気になる！主人公

物語の主人公といえば、
あなたは誰を思いうかべますか？
個性豊かな主人公の登場する小説を
ご紹介します♪



『星へ行く船』シリーズ

新井素子 著 出版芸術社

この本の主人公は「森村あゆみ」という19歳の女の子です。常に彼女の一人称視点で物語が進むのですが、冒頭は彼女の兄に成りすました状態でスタートします。

舞台は遠い未来の宇宙。地球は超上流階級が暮らす高級な星でした。そんな地球に暮らしていたあゆみちゃんはとある事情で家出をします。「家出」といっても、出ていく先は地球内にとどまらず、火星へと出ていきます。家出なので自分のパスポートは使えません。そのため、兄のパスポートを使い、兄のふりをするようになったのです。乗り込んだ船では、最上級の部屋であり、船に1つしかない個室に泊まろうとします。しかしそこには見ず知らずの男性が。あゆみちゃんとその男は揉めに揉めた結果、同じ部屋に泊まることに。その男性は私立探偵のような仕事をしている、山崎太郎という人でした。太郎は身長190cmほどの大沢善行という大男と密航していました。太郎の並外れた観察力からあゆみちゃんが女の子だということがわかるのですが、とある事件から、大沢さんが密航しなければならなかった事情に、あゆみちゃんも巻き込まれてしまいます。大沢さんは何者なのか、その後のあゆみちゃんはどうするのか、ぜひ、読んでみてください。

あゆみちゃんは、とにかく純粋な女の子です。色々あってその後も様々な事件と立ち向かうのですが、常に彼女の目線で語られるため、読者がもどかしくなっ

たり、うんざりしたりすることもしばしばあります。時に大暴れして、多くの人をハラハラさせます。でも、いい意味で単純で、憎めない存在なのです。そんなあゆみちゃんを嫌いになる人はなかなかいないでしょう。そんな彼女をこの『星へ行く船』シリーズを読んで見守っていきませんか？

『そして、バトンは渡された』

瀬尾まいこ 著 文藝春秋

この本は、さまざまな理由で親が何度も変わり、名字が四度も変わった少女、優子と、その周りの人々の話です。

主人公、優子には、なんと全部で5人の親がいます。母親が2人、父親は3人です。優子は、最初は水戸という名字で、実の母親と実の父親と暮らしていました。しかし、優子が3才のときに実の母親が事故にあって死んでしまいます。幼かった優子は、実の母親の記憶はあまりなく、そのことを小学2年生のときに知らされます。それから間もなく、実の父親は、梨花という女性と結婚しますが、しばらくして、父親のブラジルへの転勤を理由に離婚することになってしまいます。優子は、悩みに悩んだ末、梨花と日本に残ることを決めます。名字は田中になります。ところが梨花との生活は決して裕福ではなく、今まで住んでいた家から古いアパートに二人で引っ越します。それでも梨花はお金をどんどん使っていきます。そんな中、優子は学校のクラスメートがピアノをひいていることで、ピアノにあこがれ、梨花に、「ピアノをひいてみたい。」と言います。優子は、それが無理なことだと分かっていたから、さほど本気ではなかったのですが、なんと、梨花は「私だったら無理だろう。」と思わせるようなおどろくべき行動をとって、優子にピアノを与えます。その行動とは一体…？

変わった経歴の持ち主、優子はどのように育ってゆくのか。そして、だれと結ばれるのか——。優子は、いろいろな親と出会い、別れてゆきますが、いつも必ず愛されていました。

明るい感じでときにはくすっと笑えたり、夢のようで現実のような不思議な感動を味わえたり。この本を読み終わったらきっと、あなたは優子の生き方にパワーをもらえていると思いますよ…！？それではあなたもこの本を読んでみませんか？

『ハウルの動く城』シリーズ

ダイアナ・ウィン・ジョーンズ 作

西村醇子 訳（１・２巻） 市田泉 訳（３巻） 徳間書店

題名を見て、「映画になっているから知っているよ。」という人は多いかもしれませんが、でも、この本、実はシリーズもので全３巻あるのをご存じですか？それぞれ主人公が違って、どれもとても個性的で面白いのです。

まず、映画原作となった第１巻。主人公は帽子屋の娘のソフィー。魔法が実在する国インガリーで３姉妹の長女として生まれたソフィーは、「長女だから何をやっても失敗する。」と、思い込んでいます。そう、魔法のあるおとぎ話のような国では、よくある３姉妹なら上２人は「いじわるなお姉様」で、末っ子が幸せを手に入れるということが、普通に信じられているのです。

ある日、店番をしていたソフィーは、「荒地の魔女」から一方的に呪いをかけられ、１８歳から９０歳の老婆に変身してしまいます。そしてハウルの動く城にたどり着き、悪名高い魔法使いハウルと弟子のマイケル、火の悪魔カルシファーと一緒に暮らし始めるのですが…。

このソフィー、どうも思い込みの強い人物らしく、何かと、「長女だから失敗する」と言っています。さて、物語が進んでいくと、ハウルと一緒にイギリスのウェールズに行くシーンがありますが、自動車やコンピューターなど、インガリーには無いものばかりをソフィーは目にします。読者はそれが当たり前にあるので、何も感じることはないのですが、ソフィーの視点から見た感じ方には、新鮮さを感じられるのではないのでしょうか。

物語の終盤、ソフィーとハウルが「荒地の魔女」と戦うシーンではまだ「長女だから…」とか言っているソフィーですが、引っ込み思案だったのがしっかり自己主張してくるようになり、ラストのスピード感はとても気持ちが良く読み切ることができます。

第2巻の主人公は、アラビアンナイトな国の絨毯商人の若者、アブドラ。偶然出会った姫、「夜咲花」と恋に落ちますが、彼女が魔物にさらわれ助けに旅に出ます。

インガリーでハウルに助けを求めるために行くのですが、彼が途中で出会う人や物には、文化の違いがはっきりとあらわれています。まず初めて見るビールに違和感を覚え、家や服装まで、見慣れないものばかり。出身国では人々は美辞麗句（おせじ）を大切にしているが、インガリーの人にとってはうっとうしいことなど、それらに少しずつでも合わせようと彼は頑張ります。はたして無事に姫を助けられるのでしょうか？

第3巻はチャーメインという、かわいげのない少女が主人公。このチャーメイン、とことん「お上品」に育てられたせいで、読書以外のことは何もできません。そんな彼女が、病気の魔法使い、ウィリアム大おじさんの家の留守をまかされることに！小さな犬「宿なし」と、少年ピーターとの、一筋縄ではいかないハチャメチャな生活！一体どうになってしまうのでしょうか？

チャーメインは魔法に触れたことすらなかったのに、だんだん魔法に目覚めていきます。そして危機のせまった王国をすくうことになるのです。何もできない女の子が、だんだんたくましくなっていく様子はとてもさわやかです。

このシリーズ、ぜひ読んでみて下さい。



『表参道高校合唱部！ [1]』

櫻井剛 脚本 桑畑絹子 小説 学研プラス

合唱大好きな主人公、香川真琴は名門の合唱部があるという表参道高校に転入するが、なんと合唱部は廃部寸前になっていた！足りない部員に、やる気ゼロの顧問。果たして真琴は合唱部を復活させることができるのか？

以上がこの小説のあらすじです。

この話の主人公を一言で表すと「合唱バカ」。それぐらい合唱のことばかり考えていて、それだけに突き進む、そんな主人公です。

まず、とにかく前向きで明るいこと。主人公、真琴は楽しみにしていた合唱部がなくなりそうでも、かつての恩師がすっかり墮落した姿を見てもすぐに気持ちを切り替えて、部の存続のため部員集めに奔走していきます。どんなときも物事をポジティブに捉えて奮闘する真琴の姿には勇気がもらえます！

そして、彼女には周りの人を自然と引き込む力があります。最初は合唱部を妨害しようとした生徒も、彼女のまっすぐさによって救われたり、歌の楽しさを忘れてしまった元部員に合唱の喜びを取り戻させたり、いろいろな人の気持ちを变えていくのです。また、主人公の転入したクラスには「1 軍」「2 軍」「圏外」からなる厳しいカースト制度がありました。しかし、真琴はカーストなど知ったことかともいうように突っ走っていきます。そんな行動が少しずつカーストの壁をも変化させていくのでした。

この小説は 2015 年に放映されたドラマのノベライズ版です。そちらでは、合唱シーンも聞くことができます。小説でも、歌われた楽曲の歌詞が載っているのでそこから想像を広げてみるのもいいかもしれません。

合唱を通した友情と成長の話、主人公のパワーに引き込まれてしまうような物語です。ぜひ読んでみてください。

いっしょにCATCHをつくりませんか？

～共同編集者募集のお知らせ～

CATCH は共同編集者(今年度は9人)と図書館スタッフで作っています。
令和3年度の共同編集者を、この冬から募集予定です。

対象 中学生(4月からの新中学生も可)～22歳の方

期間：1年間(令和3年4月から令和4年3月まで)

活動内容：10代むけブックリスト『CATCH』の内容企画、

本の紹介文執筆、編集、校正など

共同編集者には、年6回の共同編集会議に参加してもらいます。会議日程はメンバーで都合の良い日を相談しながら決めるので、テストや学校の行事で参加できない日があっても大丈夫！

※令和2年11月現在は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、直接集まらない形で共同編集を行っています。状況に合わせて、編集のやり方も調整しますので、ご安心ください。

くわしい活動内容や応募方法については、12月以降に図書館のHPやポスターでお知らせします。

ぜひあなたのアイデアやセンスで、魅力的なCATCHを作りましょう☆

◆ PICK UP ノンフィクション ◆

『統計学をめぐる散歩道 ツキは続く？続かない？』

石黒真木夫 著 岩波書店



統計や確率というと、難しいイメージがありませんか？難しいわりに、私たちのまわりには統計や確率があふれていますよね。例えば、天気予報や偏差値を出すには統計学が必要です。

この本では、できるだけ専門用語を使わずに、身近な統計や確率の仕組みをわかりやすく解説しています。「サイコロの秘密」では、6つの目の出方は本当にでたらめなのかを統計学を用いて検証します。「実は違う」と言われたら、みなさんは驚きますか？

共同編集者のつぶやき

～編集後記に代えて～

前号に引き続き、リモート編集で作成した今回のCATCH。お楽しみいただけましたか？来年もたくさんの本を紹介していきます！

- ①ペンネーム
- ②2020年の自分を振り返って一言
- ③気になる！脇役
- ④紙の本と電子書籍、どちら派？

①あさぎ

- ②こうしてCATCHの編集に参加させてもらえたり、いろいろ新しいことがあった年でした！
- ③長谷泉貴『妖怪アパートの幽雅な日常』（香月日輪／著 講談社）より
- ④紙派です。電子よりも文章に集中できる気がします。

①しい

- ②ちょっと怠けすぎじゃなかった？（様々な誘惑に負けてしまいます…）
- ③『走れ！！高バスケット部』（松崎洋／著 彩雲出版）より佐藤準
- ④紙派 電子は目が疲れます。

①しほ

- ②マンガをもっと描こう…。あと、勉強も頑張ろう。（マジで。）
- ③『魔女の宅急便』（角野栄子／作 福音館書店）の「ケケ」
ケケの行動力が大人っぽくて、ときには子どもっぽくてすごいから。
- ④紙の本 その方が「読んだ！！」という感じがするから。目がブルーライトでつかれてしまう電子書籍と比べると、目が疲れにくくていいから。

①ひまわり

- ②おうち時間を大満喫
- ③『ノーサイド・ゲーム』（池井戸潤／著 ダイアモンド社）より君嶋真希さん
主人公の奥さん。おうち時間満腹中に読みました。クールな優しさに心を打たれました。
- ④紙の本派 本は紙とインクの匂いが最高です。笑

①りほ

- ②毎日楽しく過ごせたので良かったです。来年は今年よりも、もっと頑張らないといけないと思っています。
- ③私の気になる脇役は、『ハウルの動く城』シリーズ（ダイアナ ウィン ジョーンズ／作 徳間書店）の2、3巻のハウルとソフィーです。1巻では主役でしたが、2、3巻では脇役として登場します。
- ④紙の本派です！
理由は、スマートフォンなど持っていないし、本を「持っている感」が好きだからです。